

デジカメ画像を CADデータに

ジェイシーシステム

中小の型紙業者向け

縫製用型紙のCAD（コンピュータによる設計）ソフトを期間貸しするジェイシーシステム（大阪市、木田順子社長、06・6242・4855）は、デジタルカメラで撮影した縫製用型紙の画像をCADデータに変換する技術を開発した。透明な方眼マットを型紙の上に置いて撮影し、方眼の線で型紙の寸法やゆがみを補正する。六月末から型紙の製造者（パターンナー）向けソフトにこの機能を加える。

画像データの加工には透明なマットに印刷した一辺五センチの方眼を利用する。画像データをCADソフトに取り込み、型紙をなぞってCADデータに変換する。方眼の画像を基準データと比較することで、型紙の寸法やゆがみを誤差1ミリ以下で補正する。これまで、デジタルカメラで撮影

した画像は精度が低いため、正確なCADデータにするのが難しかった。パターンナーは原型となる

型紙を応用して新しいデザインを作る人が多い。これまで、手書きの型紙のデータをCADソフトに取り込むには、百万円前後する専用読み取り装置や大型スキャナーが必要だった。中小型紙メーカーや個人のパターンナーには高価なため、手作業でCADデータを入力することが多かった。

ジェイシーシステムが開発した技術を使えば、比較的低価格のデジタルカメラでも手書きデータを簡単にCADデータに変換できる

ようになる。手作業で入力する手間がなくなり、作業時間を大幅に短縮できる。インターネット経由で型紙CADソフトを期間貸しするサービスの利用料は月一万五千元。方眼マットは二〇〇二年六月末までに一万一二万円の予定だが、六月末までに入会した人には無料で提供する。中小の型紙メーカーや個人のパターンナーなどに売り込み、五月末時点で百人以上の会員数を、機能追加によって二〇〇二年六月末までに千人に増やす計画だ。